

新年を迎えて

代表取締役社長 野澤 学



あけましておめでとうございます。
「THE CHEMICAL TIMES」をご愛読の皆様におかれましては、つつがなく良い新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年秋のノーベル賞は、生理学・医学賞、物理学賞それぞれで日本人が受賞し連日の受賞発表に日本中が歓喜に沸きました。自然科学分野では2年連続であり、同分野の日本人受賞者は合計で21名となりました。この事実は我々日本人が誇りとすべきことであり、科学技術立国として今後の研究開発活動に力と勇気を与えてくれるものと期待しております。

さて、本誌は1950年の創刊以来、今号で239号となりました。「ケミタイ」という愛称で長く親しまれ、ご愛読いただいております皆様は既にお気づきかと存じますが、今号より体裁を大胆に変更しました。意図したのは、読者の皆様に“最新的话题”を“より興味のある内容”で“より判り易く”提供するということです。このため、号毎に特集テーマを定め、統一したテーマ構成でまとめることとしました。今号の特集テーマは「薬剤耐性菌」です。昨年韓国で発生したMERSコロナウイルスによる感染症は記憶に新しいところですが、同様にリスクの高まりが懸念されているのが薬剤耐性菌の問題です。このリスクは我々の日常生活にも大きく関わることから、専門分野以外の方にも興味を持って読んでいただけるのではないのでしょうか。なお、今後の特集としては、「カップリング反応」(240号)、「再生医療」(241号)、「標準物質」(242号)を計画しております。皆様のご期待に応えられましたら幸甚に存じます。

ところで、当社に関わる動向としまして、昨年秋

に岩手工場内に新医薬品工場が完成いたしました。新工場は需要が高まっている医薬品原薬の供給能力向上を図ることを目的としたものですが、BCPへの対応を図るとともに既存の医薬品工場(埼玉県草加市)での余力を確保し、新たな原薬や中間体の開発を加速させることも狙いであります。さらに、自社で開発した革新的な触媒反応を医薬品製造に応用することも進めており、新工場の順調な立ち上げを期待したいところです。



最後になりますが、この新しい「ケミタイ」の表紙を飾っているイラストは、当社で開発した「還元的アミノ化触媒」の分子モデルをアレンジしたものです。この触媒は第1級アミンから第3級アミンをワンポットで簡便に効率良く合成できる優れたものであり、医薬品合成等への応用が期待されています。今後も自社開発品に限らず、新しく開発された優れた試薬や研究成果を意欲的に取り上げ、より充実した内容にして参りたいと思いますので、相も変わらぬ皆様のご指導、ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

この一年が皆様にとって光輝に満ちた幸多い年でありますように祈念しております。